

○滅紛失ニヨル償還元利金支払後之ニ対スル  
償還期以後ノ利札カ支払済トナリタル場合  
ニ於ケル弁償並ニ担保解除ニ関スル件

(明治42年12月3日 往第14619号)  
大蔵省国債局長から 日本銀行国  
債局長あて

滅失又ハ紛失シタル無記名国債証券附属利札ニ相当スル仕払金額及法定利子弁償ノ件ニ付本月10日付国債第527号ヲ以テ御照会ノ趣了承右ハ利札ニ相当スル仕払金額及法定利子ヲ弁償セシムル儀ト御承知相成度從テ後段利札欠缺ノ証券返還ノ際其担保ヲ解除スルニ当リ欠缺利札ニ対シ其一部ヲ留保スヘキモノト存候省議ヲ經此段及回答候也

(照会内容)

明治39年4月法律第34号第6条ニ拠リ償還元利金ノ仕払ヲナセン滅失又ハ紛失無記名国債証券ノ償還期以後ノ利札カ支払済トナリタル場合ニハ缺ニ償還ヲ受ケシ者ヲシテ右利札ニ相当スル金額及ビ法定利子ヲ弁償セシムヘキヤ否ヤ若シ弁償セシムルヲ要セストセハ曩ニ償還ヲ受ケシ者カ該証券ヲ発見シ之ヲ返還スルトキハ右利札ノ欠缺シ居ルモ仍ホ担保ノ全部ヲ解除シ差支ヘナキヤ否ヤ又弁償セシムヘキモノトセハ右利札欠缺ノ証券返還ノ際其担保ヲ解除スルニ当リ欠缺利札ニ対シ其ノ一部ヲ留保スヘキヤ否ヤ

右ハ差掛リ居候間至急御意見承知致度此段及御照会候也

(参考)

「大蔵省ニ於ケル原議ニ附シタル理由書」

第2ノ問題ハ第1ノ問題解決セハ当然解決ス而シテ第1ノ問題ニ関シ消極積極ノ2説アリ積極論亦之ヲ2説ニ分ツコトヲ得即チ次ノ如シ

第1 消極説

法律第34号第6条無記名国債証券利札トハ各独立シ後段其証券又ハ利札トアルニ相對応ス即チ文理上証券ハ証券ノミニシテ附属利札ヲ包含セス故ニ償還以後ノ利札支払済トナリシ場合ハ弁償セシムルコトヲ得ス

第2 積極説

(イ) 茲ニ無記名国債証券又ハ利札トアルハ各独立スルト雖後段其証券又ハ利札トアルニ相對スルモノニアラス無記名国債証券ハ後段其証券又ハ利札ノ持參人ト連続シテ讀ムヘキモノナリ

依テ此場合ニハ弁償セシメサルヘカラス但シ其弁償額ハ持參人カ仕払ヲ受ケタル金額トス

(ロ) 証券又ハ利札トアル文字ノ前後対応ニ付テハ消極說ノ如シト雖モ附属利札ハ其証券ノ一部ヲ構成スルモノナレハ証券ノ為メノ担保ハ其附属利札担保ヲモ包含スルモノト謂テ可ナリ故ニ後段ノ証券ヲ拡張シテ此中ニ附属利札ヲ包含セシメサルヘカラス從テ本件ノ場合ニ於テ弁償セシムヘキハ勿論ナリ但シ前同断

第1說ハ単ニ文理ニノミ走り法ノ精神ヲ没却セルモノナリ若シ斯克ノ如クセハ国家ハ損失ヲ蒙リ此条文ヲ設ケン趣旨ニ反ス、第2說(イ)ハ法ノ精神ニ適合スルモ文理上稍困難ナリ第2說(ロ)ハ最モ法ノ精神ニ適合スルモ而モ文理解釈上亦甚シキ不都合アルヲ見ス依テ此說ヲ採用セラレ可然ト思考ス

第2問題担保解除ノ件ハ前段ノ解決ニ基キ其一部ヲ留保スヘキモノト認ム